

解後、「ナイロン・カイル事件」を送り頂き有難う存います
 一通り拝見したわけですが、一つの内題をこれだけ周到に御研究
 された努力に対して深く敬意を表します、ナイロンの技術的文獻とし
 て見たわけでも貴重なものと思います、色々の面で啓発されるところ
 が多々ありました。

御発行の趣旨のようなことは小生としては初めて耳にしたことでは
 か、現在ナイロンの弱点和再び三親されようとしている事実は、お
 おうべくもなく、この件がナイロンへの正しい認識へのきっかけとなる
 つて呉れたら、それだけでも大きな仕事だろうと存じます、しかし不幸
 な事故の結末が行きついた所がこんな次第では、何とも残念なところ

とでありましたよう

御著を拝見して気のついたことを書いて見ます、拝見したばかりで考
 えもまとまっておりますから漫然と書きます、また申上げるところ
 は卒直に申上げますから悪しからず、道難当事者に対して難う
 つようにとられるかも知れませんが、小生の意味する所は、登山界
 全般の風潮から必然的に生じた道難であって、当事者か偶然に
 其所に出会ったのと考えております、勿論滑んできましたことでは
 すから、後から言う者はいくらでも勝手なことはいえる筈で、その
 つもりで気楽にお読み流し願います

以下制却確保はこの御見解 原稿用紙

石岡勉太郎

八月二十八日

金坂一郎

（四枚）

20x20 OKINA

(2)

有名であり同時に立派な書物である。ヤングのマウンテン・クラフトでは、直接確保を極端に排斥してあります、これは一九二〇年の初版から一九四九年改訂版に至るまで変うない所であります

所が日本の技術書の大部分は、直接確保の危険を余り強調してありません、ハーケンの使用は直接確保から危険である、というようにことを強調するものが多いのを見なうず、岩の角に *cutting edge* をひっかけて登るようなことを平氣ですすめている人々もあります

ヤングは恐らく自分や先輩の長い経験から、直接確保をいまいめたのでしよう、そして直接確保になったら簡単にザイルが切れそうなる墜落を、ボダイ・アンカーで止めてあります、このときは期せずして

制動確保が実現されたらいいですが、これは active rope が全く bad であ
ったために得られた幸運と考えられます

これほど激しいスリップではありませんが、小生も一〇米以上の傾斜地で
落の確保を知っております、このときはボディ・アンカーだけでしたので、
確保者はスタンスにおいて一尺以上もスリップしましたか、次勢が正し
かったので確保を完遂しました、これも体のばねだけでなく、制動確
保をも兼ねた訳です

ところが日本の著者たちは、どれほどの経験に立脚しているのか
知りませんが、警告を殆んど立視したといえる状態です

ハーゲン嫌いの英国人は *sliding* による *running relay* をよく用いるらしい

です、これは岩角にガイルを直接かけずに、拾繩類似の *roping* にカウ
 ナをつけて、ハーケンのかわりをさせる方法です、日本のクライマーなら
 恐らくこんな面倒なことをせず、直接岩にガイルをかけるのが普通で
 しょう、これも直接破損の危険を軽視する所からであります

マウンテン・クラフトの一九四九年版には、スリングにナイロンを用いた危険に
 ついて書いてあります、小生はこの記事に気がついたのは例の遭難後のこ
 とでありますか、遭難当事者たちもこれを知っていたらばと思うと
 残念です、欧米ではナイロン使用の歴史も長く、その欠陥も或る程度
 知られていたのです

遭難当事者たちを責める気は小生には毛頭ありません、あの場合

あのようなやり方をしたことは、現在の日本の岩登りのあり方から考え
て、少しも不思議ではないからです。しかし昔からのやり方を尊重し
ている人ならば、ああいう失敗はやらなかった、といえるかも知れませ
ん猿真似というような言葉が当事者たちに向けられたといたう、重大な
失礼だとは思いますが、戦前戦後を通じての日本の岩登りそのもの
に猿真似ではないか、というような気も致します

以上のような立場から見ても、東雲山溪会の場合には不可抗力的な事故
のような印象を受けます。小生は現場を見た訳ではないから確言は
できませんが、あのような失敗は、ヤングの弟子達でもひっかかったかも
知れないと考えます。ハーケンの使用は直接確保でありますか、やり方

によつては(制動確保ほどの緩衝手段をとれば)同接確保たうしめることも出来まいやう、ところがこれは技術的批判を受ける以前にザイルが切れてしまったらしいからです、あのときザイルを岩にこすうまいやうにできはしなかつたか、という点も含めて、この事故は大きくとり上げられるべきだと考えます

今までスリップ事故が科学的に調査された例は少いようです、だから本を書く人も確保のことになるといい加減なところでお茶をにごすだけで、誤解をまきちらしているのではないでしょう

もしこの事件がきっかけになつて、タイロン問題だけでなく、確保法全般が再検討されるようになれば、犠牲者の霊もなぐさめられる

ことになりましょう

制動確保の実施困難をように書かれた部分がありますか、小生としてはこんな容易な確保法はないと考えております、左記小生の「確保論」において目標とした二〇〇^{キレ}前後の強力な制動力は、同書表三と四図のよき仕掛けとか、その他の工夫を要することになりましょうね、ギールを滑らせること自体は何の困難もありません、ギールが動きだし掌に滑りを感じてから、手袋をはめた手で強く握りしめるだけのことで、次々勢は従来の確保次々勢(正しいものである限り)がそのまま使えます

小生は豊斜路警察署の全く初めてのお巡りさんに、一人五分が十分の指導で、この方法を伝へて下さることでございまして、これは後継者確保の練習でしたら、下からどんなに激しくザイルを引っぱっても、皆さんびくともしないので確保できるようになりまして

雪の急斜面の確保は、雪面でも掘るような大きな足場でも作らない限り、後継者のスリッパのソールでも足場を崩します、これなんか制動確保の適用で簡単に改善されます

堅雪斜面の先行者のスリッパは、昔の方法で楽に止められる人は滅多にいないように思いますか、制動確保を使えば、普通車の肩確保とめられます

激しい墮落をハーケンで受けとめ得た場合、そのとき期せずして制動
確保が実行された例は多いのではないかと思っておりますが、この怪我
の功名は割合怪我をすることが多いようです、このとき制動確保を
意識的に行えば、怪我也苦痛もありません

以上勝手なことを書きまいたわ、こんな見方をする者もいるという

御参考までに

御健斗を祈ります

八月二十八日

くま 坂一 印

石岡 繁雄 様